

日本情報考古学会第32回大会のご案内

日本情報考古学会第32回大会を下記の要領で開催いたします。現代の考古学とそれを取り巻く諸分野において、データベースの構築と活用の推進は、ますます重要になっています。そこで、大会テーマは「考古学とデータベース」とし特別講演2件を行います。一般講演でも関連する発表のほか、幅広く情報考古学に関する発表があります。前回の大会に引き続き、意義ある大会となりますよう、皆様のご協力をお願い申し上げます。お誘いあわせのうえ多数ご参加くださいますよう、お待ちしております。

日本情報考古学会第32回大会実行委員会

期 日：2014年3月29日（土）・30日（日）

会 場：帝塚山大学 東生駒キャンパス（奈良市帝塚山7-1-1） 6号館 6112教室

近鉄奈良線「東生駒」駅下車。「帝塚山大学」行きバスで約5分、徒歩なら約15分。
※「帝塚山住宅」行きバスを利用することも可能です。（「東生駒一丁目東」下車、徒歩2分）。

日本情報考古学会第32回大会 プログラム

第1日 3月29日（土） 6号館6112教室 13:00開始、17:30終了

12:30- 開場・受付

13:00-13:10 開会式 大会実行委員長 横見博之（帝塚山大学名誉教授）

研究発表1 13:10-13:30 データベースで考古学

岡安光彦（株式会社四門 文化財事業部）

研究発表2 13:30-13:50 古墳の立体地図情報の築造規格研究への適用について

西村 淳（函館大学）

研究発表3 13:50-14:10 貝塚時代前IV期における南西諸島と南九州間のインタラクション—縄文的イデオロギーの転換・維持・変容—

平良理揮（鹿児島国際大学大学院）

研究発表4 14:10-14:30 2台の力覚提示装置の協調動作に基づく遺物の仮想展示システムの検討

赤間勇也（岩手大学）、松山克胤（同）、田中隆充（同）、今野晃市（同）

研究発表5 14:30-14:50 “模倣”に関する考古学的一試論—より具体的な解釈の方法をめざして—

平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）

—休憩— 14:50-15:00

特別講演1 15:00-16:00

貝塚データベース—作成から利用まで—

総合研究大学院大学 及川昭文 先生

—休憩— 16:00-16:10

研究発表6 16:10-16:30 開ケ丘遺跡群出土土師器の蛍光X線分析

三辻利一（鹿児島国際大学）、古川知明（富山市教育委員会）、小黒智久（同）

研究発表7 16:30-16:50 土器形態における低視覚的属性の検討—製作者の態度に関する認知考古学的視点—（第2報）

黒木梨絵（（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）

研究発表8 16:50-17:10 多数の遺物を一括測定可能なレーザー型自動計測システム

村木祐太（大阪工業大学）、アルタンツェツェグ・エンフバヤル（岩手大学）、千葉 史（株式会社ラング）、松山克胤（岩手大学）、今野晃市（同）

研究発表9 17:10-17:30 電磁気学的手法による前田利長墓所の研究

泉 吉紀（富山大学大学院理工学研究部）、菅頭明日香（同）、酒井英男（同）、岸田 徹（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）、田上和彦（高岡市教育委員会）、廣瀬勇也（同）

懇親会 懇親会は、学食にて18:00頃より行う予定です。詳細は後日ホームページにてお知らせいたします。

第2日 3月30日（日） 6号館6112教室 10:00開始、15:00終了

9:30- 開場・受付

研究発表10 10:00-10:20 新潟県における古地震の考古学からの研究アプローチ

加藤 学（（財）新潟県埋蔵文化財調査事業団）、酒井英男（富山大学大学院理工学研究部）、中埜貴元（国土地理院）

研究発表11 10:20-10:40 ヒトの運動習慣（モーターハビット）生成のメカニズム—過去における土器製作者・社会・文化の考古学的理解に向けて—

平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）

研究発表12 10:40-11:00 磁化から探る考古遺物の熱履歴

酒井英男（富山大学大学院理工学研究部）、泉 吉紀（同）

研究発表13 11:00-11:20 北タイにおける土器製作者身体技法の記録と解析（続報）—モーションキャプチャの使用とその意義—

川宿田好見（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）、平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）

特別講演2 11:20-12:00

考古学データベースの緩やかな連繋に向けて

京都工芸繊維大学教授 宝珍輝尚 先生

—休憩— 12:00-13:00

13:00-13:40 ポスターセッション解説

研究発表14 13:40-14:00 北部九州弥生時代中期“遠賀川以東系”の跳ね上げ口縁甕の再検討—様式・型式・製作者のハビトウスをめぐる諸問題—

太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）

研究発表15 14:00-14:20 鹿児島県大崎町麦田下遺跡出土土器の蛍光X線分析—弥生時代後期初頭における高付式と西南四国系土器等の共伴例—

中園 聡（鹿児島国際大学）、内村憲和（大崎町教育委員会）、平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）、太郎良真妃（同）

研究発表16 14:20-14:40 磁化特性による信州の原産地黒曜石の研究

菅頭明日香（富山大学大学院理工学研究部）、酒井英男（同）

14:40-14:50 閉会式 日本情報考古学会会長 植木 武

ポスターセッション（13:00-13:40） 6号館

研究発表17 土器の粘土帯はいかにして作られるか？—北タイの伝統的土器製作村における土器製作過程の三次元形状記録と観察—

中園 聡（鹿児島国際大学）、平川ひろみ（鹿児島国際大学大学院）、太郎良真妃（同）、白井菜実（鹿児島国際大学）

研究発表18 青森県内出土の縄文土器にみられるK-Rb、Ca-Srの相関性

三辻利一（鹿児島国際大学）、太郎良真妃（鹿児島国際大学大学院）、平川ひろみ（同）、楊 帆（同）

研究発表19 土器形態における低視覚的属性とその検討方法—製作者の態度に関する認知考古学的研究の基礎として—

黒木梨絵（（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター）、新屋敷久美子（同）

研究発表20 モンゴル・アウラガ遺跡における電磁気探査と焼土の磁化研究

岸田 徹（同志社大学文化遺産情報科学研究センター）、酒井英男（富山大学大学院理工学研究部）

○大会参加費（「講演論文集」込み） 会員2000円、非会員3500円
○当日受付もしますが、会員・非会員にかかわらずメールにて「大会参加」「懇親会出席」「日曜日の弁当予約」について、事前に学会事務局までお知らせくださいますよう、ご協力ください。archaeoinfoiuk@gmail.com
○土曜日の昼食は学食をご利用いただけます。日曜日は学食の利用ができませんので、各自でご用意いただくか、事前（上記）及び29日（土）に弁当の予約を受け付ける予定です。
○宿泊は、各自でご予約下さい。
○詳細・変更は学会ホームページで逐次ご案内します。必ずご確認ください。http://www.archaeo-info.org/
○お問い合わせ等は、学会事務局まで必ずメールでお願いします（3月5日～21日は事務局不在のため）。archaeoinfoiuk@gmail.com